

常任委員会の審査

各常任委員会を開き、本会議で付託された議案および請願の審査を行いました。審査結果は各常任委員会の委員長が、28日の本会議において報告しました。

総務 常任委員会

6年度一般会計補正予算など議案7件について審査し、審査の過程で、災害応急作業等手当の新設経緯と算定根拠などについて質疑がありましたが、いずれも可決すべきものと決まりました。また、請願2件を審査し、引き続き調査検討を要するため、継続審査と決まりました。

【議案第62号】
盛岡市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例

問 災害応急作業等手当を6年1月1日からの適用で新設する経緯と、手当の財源は。

答 6年1月の能登半島地震発生を受け、避難所運営などの事務が手当の支給対象となる旨の技術的助言が国からあり、すでに派遣されていた職員を対象とするために手当を新設した。財源は一般財源で対応するが、長期の派遣となる場合は、受け入れ先の自治体から別に災害派遣手当が支給される。

教育福祉 常任委員会

6年度一般会計補正予算など議案6件について審査し、ひろばモリーオの家庭訪問事業の内容などについて質疑がありましたが、いずれも可決すべきものと決まりました。また、法令等遵守違反が疑わしい保健所長発言の事実確認等の請願については、不採択とすべきものと決まりました。

【議案第61号】
令和6年度盛岡市一般会計補正予算（第1号）

問 教育支援センター「ひろばモリーオ」の青山教室の教育相談員が増員されるが、相談員が行う家庭訪問の対象は。また、学校が行う家庭訪問との相違点は。

答 家庭訪問は家庭や学校からの要望を踏まえて行う。モリーオの目標は、学校に戻って勉強に励んでもらうことであり、学校の家庭訪問の狙いと異なる点があるが、学校とは常に連携し、その子どもに合った家庭訪問を行っていく。

産業環境 常任委員会

6年度一般会計補正予算、盛岡市飲料水供給施設条例の一部改正など議案4件について審査しました。審査の過程で、ジャズの魅力発信事業に係る実績と今後の方針や、中日戸、大神飲料水供給施設の廃止に伴う費用の違いなどについて質疑がありましたが、いずれも可決すべきものと決まりました。

【議案第61号】
令和6年度盛岡市一般会計補正予算（第1号）

問 ジャズの魅力発信事業として実施した中学生を対象とする鑑賞講座の実績と今後の方針は。

答 都南と玉山の2地区でジャズコンサートを実施し、都南地域では見前中学校の全校生徒572人が、玉山地域では渋民、玉山、巻堀中学校の全生徒計265人が参加した。芸術文化について、若年層への浸透を狙っており、さまざまな関係機関と連携し、多くの世代に浸透するよう努める。

建設 常任委員会

盛岡市下水道条例の一部改正、盛岡市旧覆馬場活用交流施設条例の一部改正、財産の取得など議案6件について審査しました。審査の過程で、排水設備工事責任技術者数の動向や除雪グレーダの更新計画などについて質疑がありましたが、いずれも可決すべきものと決まりました。

【議案第72号】
財産の取得について

問 市が所有する9台の除雪グレーダの更新計画や購入に係る財源は。

答 グレーダの標準使用年数は16年だが、今回更新予定の3台は34年経過し老朽化しているため、売り払いの上、新たに車両を購入する予定であり、購入財源は、3分の2が国の交付金である。その他に、標準使用年数を超過しているグレーダが4台あり、7年度以降も予算を確保し、更新していく。

議会活動レポート

常任委員会や特別委員会が調査を実施

環境保全対策特別委員会

4月15日に宮古市の視察を行いました。宮古市版シュタットベルケの取り組みとして、宮古市スマートコミュニティや再生可能エネルギービジョンの概要、再生可能エネルギーの地産地消による地域内経済循環の創出などについて、説明を受けました。



持続可能なまちづくりを調査

公共交通対策特別委員会

4月25日に青森県八戸市の視察を行いました。八戸圏域地域公共交通活性化協議会の取り組みとして、八戸圏域地域公共交通の状況や八戸圏域Ma a Sの概要、バス事業者との連携などについて、説明を受けました。



八戸圏域の取り組みを調査

総務常任委員会

5月10日に建設中の道の駅もりおか渋民の視察を行いました。玉山総合事務所総務課道の駅整備推進室から道の駅の整備状況について、歴史文化課から玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館整備事業の進捗状況などについて、それぞれ説明を受けました。



建設中の道の駅を視察

農商工連携特別委員会

4月26日に勉強会と八幡平市の視察を行いました。勉強会では玉山総合事務所産業振興課の取り組みについて、視察では起業志民Projectでの取り組みの中核である、プログラミング合宿スパルタキャンプについて、それぞれ説明を受けました。また、5月31日に勉強会を行い、岩手県事業承継・引継ぎ支援センターの取り組みについて、同センター統括責任者の佐々木孝志氏を参考人として呼びし、事業承継の現状やマッチング事例などについて、説明を受けました。



起業を志す人材育成を調査

議会運営委員会

5月13日から15日まで視察を行いました。茨城県取手市では、Zoomによるオンライン会議の取り組みなどについて、川崎市では、Webex Meetingsによるオンライン会議の取り組みや課題などについて、静岡県沼津市では、オンライン会議の本格的な導入に向けた試行運用の状況や課題などについて、それぞれ説明を受けました。



オンライン会議を調査

未来を担う若者の声

令和6年1月7日開催の「二十歳のつどい」で参加者に市議会などに関するアンケートを行い、その結果を市議会ホームページに掲載しました。結果の詳細は右の二次元コードから確認することができます。





市議会では、スポーツを通じた健康長寿社会の形成と地域活性化の実現を目的に平成31年3月に議員発議により「盛岡市スポーツを通じた健康づくりの推進に関する条例」を制定しました。条例では、市民が健康で生き生きとした暮らしを持続できる地域社会を実現するため、市の責務やスポーツ・健康づくり関連団体、事業者などのそれぞれの役割のもと、相互に協力することを定めています。そこで、条例制定から5年がたった現在の本市のスポーツなどの状況について、議会広報委員がスポーツに関わる皆さまにお話を伺いました。

元気はなまる教室の様子

今日の健康状態をチェックし教室がスタート。今の体を維持するために、一人ひとりが「私のプラン」を作り参加することで、意欲につながり継続していく。初めての参加者もいれば通い始めて7、8年という参加者もあり、「体力を維持して岩山の散歩を続けることが目標」という人も。何より、回数に縛られず無理なく参加できることが魅力とのこと。インストラクターからは「介護予防体操は三十代四十代こそ参加してほしい」との話も。終了後の参加者からの言葉は「次回も参加する」だった。



教室での介護予防体操

◇取材先：元気はなまる教室参加者、インストラクター

◆元気はなまる教室

「元気はなまる筋力アップ教室」の通称。老人福祉センターなどでおむね65歳以上を対象に介護予防のための体操、レクリエーション、講話を行っている。

アプリを活用した健康増進

コロナ禍でスポーツイベントの開催が困難となる中、市ではアプリ「MORI-WALKER」を導入し、市民の健康づくりの機会の確保に努めた。「もりおか健康ウォーク」ではアプリ利用者へポイント付与の特典もあり、参加者からは「楽しかった」や「また参加したい」との声が。社員の健康づくりにMORI-WALKERを活用している会社も。市内のウォーキングイベントには会社全体で毎回参加しているという皆さんからは「ウォーキングの楽しさがどんどん広がってくれば」と期待の声！



参加者でにぎわうゴール地点

◇取材先：もりおか健康ウォーク in 春の海ごみゼロウィーク参加者

◆MORI-WALKER

市公式の健康づくりのアプリ。ウォーキングや体重記録などを行うと「健康ポイント」がたまり、MORIOペイポイントと交換できる。

体育館と地域の関係

都南、飯岡および乙部、いずれの体育館でも「コロナ禍で最大20%ほど利用が落ち込んだが、5類移行後の現在は回復し、以前を上回っている」と話す。それぞれの体育館の人气も高く、都南体育館では利用団体同士の協議によって使用のバランスを取っており、飯岡体育館では利用予約のために並ぶことが多々あり、乙部体育館では当日に飛び込みの利用があると語る。各館で利用者の期待に応えられるような施設運営を行っており、体育館は地域スポーツにとって必要不可欠な施設となっている。



インタビューに応じる館長

◇取材先：都南体育館、飯岡体育館、乙部体育館

部活動の地域移行

もりスポネットの役員は、「条例は役所の縦割りをなくすという方向で意義があったと思います」と話す。一方で、「部活動の地域移行については、移行がスムーズにできるほど総合型地域スポーツクラブが浸透している状況でもなく、持続可能なスポーツ文化の環境整備のために、学校と地域クラブとのマッチングや多世代にわたるスポーツの機会を創り出すコーディネーターなどの設置に向けた提言を行ってほしいです」とも話し、今後の市議会の役割に期待を寄せた。



もりスポネット作成の冊子

◇取材先：もりスポネット

◆もりスポネット

市総合型地域クラブ連絡協議会の通称。平成28年に市内5つのクラブが中心となって設立。現在は7つのスポーツクラブが連携し、それぞれの持つ「強み」と「弱み」を共有し、補っていくことを目的としている。

プロスポーツの振興

いわてグルージャ後援会会長は「幅広い年齢層に加えて女性も多く、敷居が低く家族的なところがグルージャサポーターの特徴。市外から来ている人も多く、応援でつながりができた。自分達のチームと思って気軽に応援に来てほしい」と語る。また、副会長も「多様な人々が集まる場で、友達がたくさん増えたのが一番よかった。経済効果も大きいと思う」と語った。中には、外国人選手との交流を目標に英語を頑張るという中学生も。「グルージャの存在が生きがい」と会長は笑顔を見せた。



楽しげに話す後援会の皆さま

◇取材先：いわてグルージャ後援会

◆いわてグルージャ盛岡

いわぎんスタジアムをホームスタジアムとし、県内33市町村をホームタウンとするプロサッカーチーム。令和5年からいわてグルージャ後援会が発足している。

インタビューを終えて

議員発議により策定した条例がどのような効果をもたらしているのか追跡調査を行いました。今回、皆さまからのお話を通じて、身近な運動場所としての体育館やイベント、気軽に応援に参加できるプロスポーツの存在が、スポーツを楽しむ環境づくりに加えて、地域の活性化に寄与している様子が伺えました。

一方で、部活動の地域移行のように、仕組みづくりが十分でないという声が聞こえる分野もあり、今後市議会として皆さまの声を市政に反映してまいります。

お忙しいところご協力いただき、
ありがとうございました。